

これから求められる学習指導について⑤。

各教科・領域等の授業実践を振り返る中で。

今号では「アクティブ・ラーニング」の「協働的に学ぶ」の視点について書かせていただく予定でした。しかし、子どもの「主体的に学ぶ」についてもう1つご紹介させていただきたい資料がありましたので、今号までこのテーマでよろしくをお願いします。

□「課題の発見・解決に向けて**主体的に学ぶ**」について

子どもたちが主体的に学べるようにするには、「子どもたちが学習問題を『自分ごと』としてとらえること」が必要です。そして、それと同時に「**子どもたちはどのように学ぶか**」についても考えていく必要があると思います。

ハーバード大学のハワード・ガードナー教授は、ご自身のマルチ能力の研究に加えて近年明らかになってきたこととして、次のことを述べておられます。

確かに、読んで学ぶのが得意だという人、まずやってみることを大切にしている人、じっくり計画を立ててから学びたい人など、人の学び方は多様だと思いま

「人間には、その人それぞれに合った学び方がある」

- ① 見たり聞いたり、読んだりして学ぶタイプ
- ②じっくり考えることによって学ぶタイプ
- ③動いたり、実際に試してみたりすることによって学ぶタイプ
- ④フィーリングや感情、直感を大切にする形で学ぶタイプ

す。先生方はいかがでしょうか。ちなみに、私は③のタイプかなと思いました。

さらにガードナー教授は、これを受けて次のように指摘しておられます。



ハワード・ガードナー

学校での学び方を振り返ってみましょう。学校での学び方は、①の学び方が圧倒的に多いのではないのでしょうか。近年は③の学び方も重視され始めているが、トータルで見ると①が圧倒的多数です。

となると、多くの子どもたちは、いつも自分の学びのスタイル（得意な学び方）とは違う方法で学ばなくてはいけないことになります。これは大変不幸なことですし、不公平なことです。何よりその子自身の多様な可能性をつぶしてしまうことになりかねません。

この話には私は納得とうちあたいをしました。**子どもたち一人一人に合った学び方にマッチするような授業のあり方を考えていく必要があると…**。容易ではありませんが、これからの授業づくりの視点として大いに追究していく価値はあると思います。子どもたちが「主体的に学ぶ」ための環境づくり。改めて大切にしていきたいと実感したガードナー教授のお話でした。